

令和6年第2回取手市教育委員会定例会議事録（公開用）

1. 招集年月日 令和6年2月20日（火曜日）午前9時00分
2. 招集場所 藤代庁舎 301会議室
3. 出席委員
教育長 伊藤 哲
教育委員（教育長職務代理者） 小谷野守男
教育委員 櫻井 由子
教育委員 猪瀬 哲哉
教育委員 石隈 利紀
4. 欠席委員 なし
5. 委員以外の出席者
教育部長 井橋 貞夫
教育参事 伊藤 誠
教育次長兼教育総務課長 森川 和典
学務課長 直井 徹
保健給食課長 大野 篤彦
指導課長 丸山 信彦
指導課長（教育総合支援センター担当） 笠井 博貴
生涯学習課長 塚本 豊康
子ども青少年課長 長塚 逸人
スポーツ振興課長 豊島 寿
図書館課長 樋口 康代
文化芸術課長 飯山貴与子
6. 書 記
教育総務課 課長補佐 蛭原 康友
教育総務課 総務法規係 係長 中村 翔
7. 議 題
議案第3号 取手市教育委員会職員退職に係る人事異動について（非公開）
報告4 いじめ防止策の取組状況に関する報告について
8. そ の 他
(1) 3月の行事予定及び教育委員会定例会の日程について
9. 発言の記録

午前9時00分開会

○教育長（伊藤 哲）

ただいまの出席者は5名で定足数に達しております。令和6年第2回取手市教育

委員会定例会は、成立いたしました。

これより開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本定例会の議事録について、確認のため申し上げます。議事録は、会議における発言者の氏名と発言全部を記載する全文筆記による作成といたします。なお、教育長のほか会議に出席した委員全員の署名により、議事録を確定させることといたします。また、会議の録音データにつきましては、議事録作成の補助手段の扱いとし、議事録が確定した後に消去させていただきます。

それでは、教育長報告をさせていただきます。

今回、項目が11項目で、濃淡じゃないですけど、少し考えながらお話をさせていただきます。まず1点目です。全国いじめ問題子供サミットについてということで、これは例年、文部科学省のほうで開設されているということなんですけれども、子どもたち、特に中学生中心にしたリーダーの育成と、いじめの防止策についての取組を文部科学省としても支援をするという狙いでございます。1月27日（土曜日）に、全国から小中学生135名が参加しまして、文科省において行われたところでございます。午前中がいじめ問題の取組についてのポスターセッションですね。それで、午後からはグループ討議や全体協議、最後はいじめ問題を起こさないようにメッセージづくりなどということで、交流と協議が行われたところでございます。茨城県の代表ということで永山中学校の生徒3名がスローガンづくりや、学校行事の取組ということでポスターセッションを通じて紹介することができたということでございます。この参加した生徒の感想が枠組みで記載してございます。非常にいい感想を持っていただいたというふうに私は感じました。1つは、全国の様々な人々とのかかわりがあったということでございます。それぞれ地域による違いというものも生徒自身も感じたところでございます。共通の目標に向かって様々な意味のある議論ができたということでございますけれども、その中でこの生徒さんが言っているのは「言葉には未来を変える力がある。」良い方向に悪い方向にもあり得るということでございます。そのことを人が救われるという一方で、傷つくきっかけになるかもしれないという生徒さん自身の気づきがあったということで、非常にいい催しであったかなというふうに私も感じたところでございます。

2番目です。取手市小中学生プレゼンテーションフォーラムの開催ということで、2月9日に各校の代表ということで、小学校の4年生から中学2年生までの20組55名の児童生徒がウェルネスプラザに一堂に会しまして、開催されたところでございます。内容につきましては、各教科とか総合的な学習の時間の授業の中で取り組んできた、探求学習をまとめたプレゼンテーションということでございました。そのテーマにつきましては、SDGsをテーマに自分たちのできる環境保全活動の発信、取手市をさらに魅力あるまちにするための提言、ノーマライゼーションを訴えたもの等、多岐にわたるものでございました。資料や文章、話の組立てを工夫しまして、保護者も含めた観客を前にジェスチャーを交えたものもございました。何回か重ねてきたわけですけど、プレゼンの仕方も工夫されていまして。今年度は、さらにプレゼンの向上とSDGsの意識の向上ということで、新たに取手第一高等学校の方にも参加をしていただきました。また、環境保護に注力していただいている大学の先生や協賛されている企業の方々5名をアドバイザーにお迎えしまして、それぞれのコメントと総評をいただいたところでございます。

続いて3番目です。大谷翔平選手から贈られたグローブが市内の小学校に届いた

ということで、1月12日に教育委員会のほうに届きました。市内の小学校14校に配付させていただきまして、順次、子どもたちに披露をされたところがございます。その中で1月17日に白山小学校で体育館に集まってお披露目会が行われたところがございます。この様子はNHKのテレビのニュースでも取り上げられまして、非常に活動的な場面が映ってございました。子どもの中から「嬉しいです。大谷選手の野球やろうぜという気持ちがグローブから伝わってきました。」という感想が出されたところがございます。

続いて4点目です。取手市学校給食展の開催についてということで、藤代庁舎にも下に飾ってございます。この後、藤代駅、取手駅の各市民ギャラリーのほうで市民の方一般に向けて展示を開催するところがございますけれども、学校給食の変遷が分かる写真や、昭和・平成・令和の人気メニュー、児童生徒による学校給食にまつわる絵画などを紹介しているところがございます。

5点目です。第28回の取手市小学生ドッジボール大会ということで、2月3日（土曜日）、グリーンスポーツセンターのほうで開催したところがございます。今大会は8チーム103名の参加がございました。上位入賞のチームは御覧のとおりでございます。また、この大会につきましては市のスポーツ推進員の方々に御協力いただいたところがございます。

6点目です。令和5年度の取手市少年の主張大会についてということで、2月4日（日曜日）、市民会館において行われたところがございます。第34回ということでございます。こちらは青少年育成の市民会議、教育委員会、関係団体含めて御参加をいただいたところがございます。総勢250名の参加がございました。善行表彰もあわせて行ったところがございます。当日は1名の生徒さんが欠席ということになりましたけれども、それ以外の方は出席していただいて、日常生活の中で日頃抱えている思いや社会に対する提言、考えなどを発表していただいたところがございます。中にはパネルを用意しまして、説明をしていただいた生徒さんもいらっしゃいました。

続いて7点目です。市民大学の東京大学EMP特別講座ということで、2点のお話です。まず1つ目は「気候変動と健康～プラネタリーヘルスの視点から～」ということで、橋爪先生のほうから2月6日に行われたところがございます。こちらについては温暖化による健康影響ということで、今まで日本では見られなかった感染症、マラリアとかデング熱等も懸念されるという、これは気候変動で温室効果の影響があるということで、非常に今までにない講座でございました。その感想の中には、先進国が負うべき責任を痛感したという感想も出されたところがございます。

2番目です。「中国の政治外交と日本」ということで、高原先生のほうに2月13日に行っていただきました。最近はニュースにも出てきていますけれども、中国の強硬的な外交姿勢の事象について、その背景、特に中国国内の政治体制について詳しくお話がございました。特に参加者の感想にもございますけれども、マスクミに報道されないような事実の紹介もございました。中国の国家体制の流れについても非常に細かくお話をいただいて、非常に貴重な機会となったところがございます。

続いて8点目です。学校運営協議会の開催についてということで、コミュニティ・スクールの研修会が校長会対象に行われました。2月13日（火曜日）にウェルネスプラザのほうで行われたところがございます。この中で、安齋先生がずっとこういった研修会を行っていただいているわけなんですけれども、今回、特に地域に

開かれた、社会に開かれた教育課程の実現ということで、地域探検を行うんですけども、イベント的なものじゃなくて学校の授業の中できちんとした位置づけをされているということを学校の中、あとはその外に対して、保護者やその地域の活動を行っていただく方にもきちんと見せる状態にしているという、福島での実践が示されました。その上に立って、企業との連携ということで、直接その企業等に赴いて協力活動を訴えるということが必要だということをお話をさせていただきました。

その次、2番目でございますけれども、各学校の運営協議会ということで、2月8日、久賀小学校、同じく2月8日に取手西小学校のほうで行われましたけれども、中心となるのは次年度のグランドデザインについて、熟議方式で学校評価の結果報告もあわせて議論をしていただいたところでございます。

続いて9点目です。JOBAN アートライン協議会の「ポスターカードアートコンテスト」受賞作品決定と展示についてということで、こちらは例年どおり行われているところでございますけれども、応募点数が206点、その中で大賞・入賞を決めたところでございます。この展示が3月から4月にかけて、取手駅のギャラリーと藤代駅ギャラリーのほうで展示が行われるところでございます。

続いて10点目です。「とりで スクール・アートフェスティバル2024」ということで、1月21日から28日（日曜日）にかけて、市内の公・私立の全日制の高等学校全7校が一堂に会するフェスティバルが行われたところでございます。今年度は音楽のイベントばかりじゃなくて、中ほどにありますダンス、演劇の発表会等もございました。あとは、その手作りの雑貨の販売、また例年ございますけれどもアートギャラリーでの作品展示等にぎわったところでございます。

最後11点目です。「大空凧プロジェクトー高須で空あそびー500枚の連凧アーチカイト揚げ」の開催についてということで、これは日程変更がありまして2月4日（日曜日）に行われたところでございます。ただ、残念ながらちょっと雨が降ったりしましたけれども、何とかアーチカイトを揚げることができました。私は参加できなかったのですが、非常にきれいな状態で、写真でも御覧いただけますよね、きれいにアーチになったということで。当日、高須の公民館まつりも兼ねて行ったところで非常ににぎわったところでございます。私からの報告は以上でございます。

委員の皆様にお知らせをいたします。この後議題となります議案第3号につきましては、教育委員会事務局職員の人事に関する議案でございます。よって、議事を非公開とすることを発議したいと考えます。

お諮りいたします。議案第3号の議事につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、議事を非公開としたいと考えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長（伊藤 哲）

御異議ありませんので、議案第3号の議事は非公開といたします。

傍聴の方が御退席されます。

〔会議室閉鎖〕

○教育長（伊藤 哲）

それでは、議事に入ります。

議案第3号、取手市教育委員会職員の退職に係る人事異動についてを議題といたします。

本件についての説明を井橋教育部長お願いいたします。

(非公開のため説明・審議は省略)

○教育長（伊藤 哲）

御異議なしと認めます。よって、議案第3号は原案のとおり決定いたしました。非公開とした件の議事が終了いたしましたので、会議の非公開を解除いたします。

〔会議室開鎖〕

○教育長（伊藤 哲）

それでは、議事を再開いたします。

報告4、いじめ防止策の取組状況に関する報告についてを議題といたします。

本件についての報告を笠井教育総合支援センター長お願いいたします。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

よろしくお願いいたします。報告4、いじめ防止策の取組状況に関して報告いたします。全員担任制・チーム指導、教育相談部会システムに関する報告となります。

資料1 ページの1、全員担任制に関する視察の受入れにありますように、今年度、センターには、学校関係だけでなく大学教授、また日本教育新聞社から全員担任制に関する問合せがあり、センターでの説明や中学校での訪問、また先生たちとの懇談などを行い、視察を実施しました。全員担任制に関する視察の資料として説明しているものが、2の一人一人の児童生徒を見る体制、学校における再発防止策の視点となります。この資料を通して、取手市の全員担任制・チーム指導は、複数の教員が様々な視点から児童生徒を見る。児童生徒の不安や悩みに気づき、具体的な対応を行うことができるチーム体制をつくる取組であることを説明するようにしています。また、教育相談部会システムがあることによって、複数の教員が様々な視点で見る、具体的な対応を行うチーム体制になっていることを説明するようにしています。

視察に来る学校の多くは、若手教員が学級担任としてうまく機能しなく、休職や退職をしてしまう。また、働き方改革の一つとして、全員担任制を考えているようですが、学校における再発防止策の視点を説明することで、取手市の全員担任制実施の目的は、教職員のための取組ではなく、子どもたち一人一人を丁寧に見るための取組であるということを理解してもらっています。取手市の全員担任制・チーム指導は、市として取り組んでいるところにほかにはない強みがあり、また、市内小中学校の全てに教育相談部会があり、さらに学校連携支援員やスクールカウンセラー・スーパーバイザーも参加し、支援体制を構築しているところに強みがあり、ほかにはない特徴があります。

感想は、視察に来られた学校から視察後に届いたものですが、最後の感想にもありますように、全員担任制は運営の仕方により多くの可能性を秘めている取組であります。現在、今年度の振り返りを集計しているところですが、各校の実践の共有化がなされていないという課題も指摘されていますので、今後、各校の取組を共有し、学び合うことで、全員担任制・チーム指導、教育相談部会をさらに子どもたちのために効果的な取組にしていけるよう進めていきたいと考えています。

資料2 ページの表は、全員担任制・チーム指導、教育相談部会システムが児童生徒のためになっているかということを検証するための手法として、点検評価にも上

げているものです。計画上の目標値と比較しても、どの項目も高い数値となっています。クラスが安心して過ごせる場、悩み事や不安なことを相談できる先生たちがいる、自分のよいところを認めてくれるといったことは、いじめに対する未然防止だけでなく、不登校対応にも通ずるところがあると考えておりますので、この後集計を行う令和5年度実績値の結果をセンターで分析し、課題となっている面については、次年度の重点課題として取組を進めていきたいと考えています。

全員担任制・チーム指導、教育相談部会システムについては、令和6年度で5年目となり、改めて取手市で全員担任制・チーム指導、教育相談部会システムを行っている目的については資料にもありますように、全職員を対象にした説明の場、また校内での説明の場など、二重三重の確認を通して、教職員の意識化を図っていくことが必要だと考えています。報告は以上となります。

○教育長（伊藤 哲）

報告が終わりました。

本件につきまして質疑、御意見ございましたらお願いをいたします。

石隈委員。

○教育委員（石隈利紀）

よろしいでしょうか。御報告ありがとうございました。これ始まって4年、今年度で終わるということですかね。全員担任制が非常に進んできて、最初に戸惑いはあったと思うんですけども、生徒がアンケートにも、悩み事があることが相談できる先生がいると答えているというのが、中学年では9割近くいるというのは、とてもいいなと思います。ちょっと確認というか質問なんですけど、全員担任制にされたけど中3だけは進路のほうで事務担当を置くというのは、以前聞いたことがあるんですが、それ今でもやっているんですかね。

○教育長（伊藤 哲）

笠井センター長。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

石隈委員の御質問にお答えします。1・2年生は学級事務担当、3年生は進路事務担当ということで、特に10月、11月、12月ということで、進路に関する部分が非常にウエートを占める3年生においては、ある程度、担任を固定している学校もあるし、4月からある程度ローテーションを組んで、学級担任を変えながらやっているという、それぞれの学校の特色を生かしながら取り組んでいるのが実態です。

○教育委員（石隈利紀）

分かりました。よろしいでしょうか。では、その事務担当が従来の担任にならないように変えていっているところもあるし、変えていないところも事務担当なので従来の担任のように、いろいろなことを全部自分でやるということではないというのは結構実現している感じですか。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

お答えいたします。今、石隈委員のほうからあったように、従来の学級担任ではなく、その学年組織で対応するという体制については、全員担任制の目的に沿ったものを実現しています。

○教育委員（石隈利紀）

ありがとうございます。もう1つだけ、中学校の話は非常に分かりやすく、小学校のチーム指導、私も取手市は全員担任制をやっていますよというのを他県で研

修する時もお話しするんですけど、チーム指導のときはどう説明していいのかなというの私も理解が不十分で、もう1回チーム制度の趣旨と、今うまくいっているのか、課題は何か、教えていただけませんか。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

お答えいたします。小学校と中学校の大きな違いは、やはり中学校は学級数プラス今まででいう副担任の先生がいるというところ、より多くの視点で見る。ただ、小学校の場合は3クラスしかない場合には担任が3人しかいないというところで、そこをうまくどうやっていくかというところがポイントになると思うんですが、朝の会や帰りの会、給食などに別なクラスの先生が入ることによって、1つの視点ではなくより多くの視点で見ることができる。また、学級数が1クラスとか2クラスの学校においては、例えば5年生と6年生の担任の先生を変えて、朝の会、給食、帰りの会を見るなり、清掃などで子どもたちとかかわりながら、それぞれの学校の実態に応じて、1人の先生が全てを見るのではなく、より多くの先生が関わって、子どもたち一人一人を見とっていくという体制をとっています。

○教育委員（石隈利紀）

なるほど、よくわかりました。いわゆる昔の学級王国ではないように入替とか壁を薄くしているということですね。ありがとうございます。

○教育長（伊藤 哲）

ありがとうございます。そのほかございますか。
櫻井委員。

○教育委員（櫻井由子）

御説明ありがとうございます。4番のほうに、この全員担任制・チーム指導、教育相談部会システムを行っている目的の確認徹底のために行っていること5項目ありましたが、こちら教職員の方に向けてというような項目と思います。各学校の、特に小学校から中学校に上がる時に入学準備説明会があると思うんですけど、そういったときに、どのように新入生の保護者に説明しているのか、お分かりになれば教えていただきたいと思います。

○教育長（伊藤 哲）

笠井センター長。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

櫻井委員の御質問にお答えいたします。やはり保護者の理解というのが、この全員担任制・チーム指導を行う上ですごく大切だと考えています。2月に行われている新入学説明会においては、小学生向け、保護者のもの、中学生保護者向けのものを事前に用意し、そちらをもとに各学校で説明し、各学校で実際取り組むものは多少違ってくるんですが、基本的なその全員担任制・チーム指導については、共通理解が図れるようなものを配布しております。

○教育委員（櫻井由子）

ありがとうございます。その共通理解が図れるものは、相談センターのほうでまとめてつくってというような——資料はどこでつくっているかお願いします。

○教育総合支援センター担当課長（笠井博貴）

お答えいたします。センターのほうで作成したものを全学校に配付しております。

○教育委員（櫻井由子）

ありがとうございました。

○教育長（伊藤 哲）

そのほかございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長（伊藤 哲）

それでは質疑、御意見なしと認めます。これにて報告4の質疑、御意見を終結といたします。

以上で報告4の議事を終わります。

次にその他に入ります。事務局から報告等をお願いいたします。

○教育総務課課長補佐（蛭原康友）

事務局から1点御報告申し上げます。令和6年3月の行事予定及び教育委員会定例会の日程についてになります。委員さんのお手元に、3月の予定行事報告表、本日現在のものがお配りされているかと思えます。3月の教育委員会定例会は3月26日（火曜日）10時からということで予定しております。また、同日に総合教育会議が予定されております。あわせて日程と時間がきまりましたら、文書で御通知申し上げますので御確認をお願いしたいと思います。事務局からの報告は以上になります。

○教育長（伊藤 哲）

教育委員のほうから、何かございますか。

櫻井委員。

○教育委員（櫻井由子）

2月9日に全国教育委員会研修会のほう、東京で行われましたので参加してきましたので、御報告させていただきます。行政説明のほうはちょっと省かせていただきますが、文科省の方からの行政説明がありました。その後、教職員の働き方改革についての分科会に参加させていただきました。全国の教育委員の研修会ですので、分科会も非常に全国から、目黒区、福井県坂井市、香川県さぬき市、山口県和木町、人口が6,000人という小さいところ、幼小中一貫だそうです。それから、埼玉県志木市の方と私の6人で分科会を行いました。

事前に取手市の取組については、事務局のほうで資料を作成いただいて、メンバーと情報共有を図っております。感想なんですけれど、先ほど教育長報告の1番にあった、全国のいじめ問題こどもサミットについても教育長のほうからもありましたが、やはり地域による差が大きいということで、ほとんど取り組んでないですよというところから、財政的に余裕のある目黒区さんなんかは、ここを外注していますとか、こういうシステムを導入していますとか、本当に差が大きいなと思いました。

その中で取手市のほうも発表させていただいたんですけど、ほかの委員さんから評価いただいたのは多方面からのアプローチがきちんとされているということで、例えば行政でしたら給食費の徴収を行政のほうで行っている。地域は登下校の見守り隊を地域で行っている。また、委員会は委員会で、健康観察のリーバーとかHome & Schoolとかテストの採点システムとか、様々なそういうシステムの導入をしているということで、行政と地域と委員会がきっちりタッグを組んでというか、それぞれやることをやって、働き方改革を進めているというような評価をいただきました。特に多かったのが、そこですかと思ったんですけど、給食費の徴収を市でやっ

ていますって言ったら、予算規模まで聞かれました。目黒区さんはこれ外注しているそうなんですけど、取手市は外注ですかとか、いや外注じゃありません、担当課の方が一生懸命やってくれています。そのための予算規模はどれぐらい取っていますかという、いや、そこまではちょっと分からないんですけどみたいな。そういうような話もありました。福井県の方から聞かれました。

あと、登下校の見守り隊も、地域の方やっていますと言ったら、さっきの山口県和木町の方から、うちの学校の校長先生がなかなか学校外に出てくれなくて、地域の方とのコミュニケーションうまくいかないみたいなんですけど、どうしたらいいでしょうねみたいな、本当にざっくばらんな質問というか意見交換ができて、もちろん私のほうからも、それぞれの取組について質問させていただきました。

埼玉県志木市では、教育委員会のほうで、あちこちの先進自治体に研修に行っているそうなので、研修いいですねというような話であるとか、あと香川県さぬき市さん、さぬき市さんは取手より若干人数少ないんですけど、この中では規模的には一番近かったかなと思うんですけど、働き方改革と言っても、一般企業のようにただただ仕事を削ればいいだけじゃないよねというような御意見が出たりとか、非常に有意義な研修会でした。以上です。

○教育長（伊藤 哲）

ありがとうございました。分科会の様子がすごくわかりました。改めて私たちも勉強しなくちゃいけないってことが、はい。自治体のことを知るというのは、自分のやっていることを見直すことになりますので、ありがとうございました。

○教育委員（櫻井由子）

褒められました、取手市。

○教育長（伊藤 哲）

コメンテーターがすばらしかったと思います。

そのほかございますか。

猪瀬委員。

○教育委員（猪瀬哲哉）

すみません。来年度から、各学校単位で行う家庭教育学級というのがなくなったというお話を聞いたんですけど、どのような流れでそのような流れになったのかちょっとお聞きしたいと思ひまして、お願いします。

○教育長（伊藤 哲）

塚本課長。

○生涯学習課長（塚本豊康）

家庭教育関係のほうなんですけど、今年度、校長会のほうから、こちらの内容の見直しについて、事務軽減も含めてお話がございまして、今の取手市の場合、各学校ごとに家庭教育学級を設置しているんですけど、ちょっとその部分が負荷になる部分もかなりあると。昨年末に、実際参加されている保護者の方々にアンケートもさせていただいたんですけども、その中でも負担感というものが、先ほど委員の話の中にもありましたが、働き方改革という中で、実際の事情と、当初設定した形と合っていないんじゃないかというお話がございまして、その辺も踏まえて来年度につきましては、集合研修という形で年何回か講座をやっているんですけども、その講座は残して、逆に学級単位での活動というのは集約していく形でお話をさせていただいているところでございます。

○教育委員（猪瀬哲哉）

ありがとうございました。なかなか私も会長やっているときに、だんだん人が集まらないとか様々、毎回、委員長とか悩ませていたんですけど、私も今まで行ったことなかったんですけど、一度ちょっと参加してみると意外とすごく考えられた会で、こういうことをやっていたんだなと思うと、委員長さんの苦労もあるんでしょうが、時代に合わせた流れということで、今後は市のほうでやっていただけるということで、本当、私も、行かなかった者が行ってみると、こういうことをやっていたんだと思って新たな発見もあったので、いいほうに進めばいいなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○教育長（伊藤 哲）

ありがとうございました。

そのほかございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長（伊藤 哲）

以上で今定例会に付議されました事件の審議は全て終了いたしました。

令和6年第2回教育委員会定例会を閉会といたします。

午前9時35分閉会